

OPAC 通信

Okinawa
Peace Assistance
Center

特定非営利活動法人
沖縄平和協力センター (OPAC)
沖縄県那覇市久米 1-5-18 稲福ビル 201-B
TEL (098) 866-4635 / FAX (098) 866-4638
www.opac.or.jp
(<http://blog.livedoor.jp/opac/>)



OPACのロゴマーク
沖縄を飛び出し世界の
現場で活躍することを
イメージしました。

Transforming Okinawa's Heart into Action

2011. October

東ティモールから研修員が来沖！



真和志小学校にて、校長先生と
ソプラノ歌手の宮良さんと一緒に

10月5日から10月20日までの2週間、JICA青年研修東ティモール（都市環境管理コース）の研修員の皆さんが来沖され、ゴミ問題など都市環境の問題解決について学びました。

研修では、石垣島や読谷村など県内各地を訪問しました。行政による衛生管理や廃棄物処理の仕組み、障がい者の雇創出と廃油を再利用したバイオディーゼル燃料製造を結びつけた取り組みなどについて、県内各所で見学しました。研修員からは「研修によって得られた経験を、近い将来の我が国ティモールのモデルに応用したい。」などといった声が挙がりました。



休憩時間中にも講師に熱心に質問



真和志小学校での歓迎会の様子

真和志小学校では、生徒による歓迎会が開かれ、東ティモールを訪れた児童による報告や東ティモールの国歌に合わせた創作エイサーの披露などの歓待を受け、研修員も感激した様子でした。

「買い物ゲーム」の授業を見学した後、児童と給食を共にして、一緒に掃除をするなど、教育現場での環境への取り組みを学びながら、生徒たちとの交流を深めました。



「ゴミ処理」に関する講義中の一コマ

編集後記

研修に同行し、東ティモールと沖縄はその島嶼性や気候など共通する点が多くあり、協力関係を築きやすい場所だということを実感しました。例えば、ティモールと沖縄で類似する（亜）熱帯性の気候においては、有機物の分解速度が速すぎて土地が痩せてしまうので、堆肥を多く要する場所があるという点です。訪問先のある企業では、草木ゴミや家畜の排泄物を組み合わせて堆肥を作り、身近にある生ゴミや公園などの草木ゴミを資源として活用していました。堆肥をつくる基材も販売し、個人でゴミ減量に取り組みたいという意識醸成の取り組みも学びました。

地域の特性に応じ、地域にある資源を活かし、課題を解決する各企業・団体の取組みに、研修員も私も興味深く拝聴しました。（平良）